# 第８回

# やぶ医者大賞

令和３年11月13日（土）

午後１時30分 開会

やぶ市民交流広場（YBファブ）ホール

主催　養父市

後　援　日本医師会、全国国民健康保険診療施設協議会、全国自治体病院協議会
関西健康・医療創生会議、認定NPO法人日本ホルモンステーション
健康加齢医学振興財団、兵庫県医師会、兵庫県市町診療施設運営対策協議会
兵庫県、養父市医師会、公立八鹿病院

# 次　第

## 開会セレモニー　・プロローグ　・主催者あいさつ

## 第１部

### 表彰式

### 受賞者発表

まつい　よしのり
**松井　善典** 氏（滋賀県　医療法人北海道家庭医療学センター浅井東診療所　所長）

演題「家庭医の森羅万象 ～結びと学び、地域の響き～」

やぎ　たかずお
**八木田一雄** 氏（北海道　松前町立松前病院　病院長）

演題「北海道・道南地方『松前』における地域医療の実践！」

## 第２部

### 特別フォーラム

**講話（オンライン）**

つじ　てつお
**辻　哲夫** 氏（東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員（元厚生労働事務次官））

演題「～地方が生き残るための医療・介護施策と今後の展望～」

**ディスカッション**

コーディネーター

NPO 法人但馬を結んで育つ会

代表理事　ちば　よしゆき
**千葉　義幸** 氏（ちば内科・脳神経内科クリニック　院長）

パネリスト

小谷村国民健康保険小谷村診療所（長野県）

所　長　なかい　かずお
**中井　和男** 氏（第７回やぶ医者大賞受賞者）

医療法人松本クリニック（愛媛県）

理事長　まつもと　つよし
**松本　毅** 氏（第７回やぶ医者大賞受賞者）

福井診療所（養父市）

院　長　ふくい　ひさのり
**福井　寿徳** 氏

## 閉会セレモニー

# 第８回 やぶ医者大賞の概要

## ■ 趣旨・目的

養父市では、薮医者の語源が「養父にいた名医」であること、また地元（養父市八鹿町宿南）で私塾「青谿書院」を開き、知識と実行力を兼ね備えた人材を育成した江戸時代の儒学者である池田草庵（養父市出身）にちなみ、若手医師の育成、医療過疎地域の医師確保及び地域医療の発展に寄与することを目的とした「やぶ医者大賞」を開催し、この顕彰により、若手医師を育てるとともに、過疎地での医療に携わることの魅力を発信し、医療過疎地における医師の確保と地域医療の発展に寄与することを目指している。

## ■ 対象者（応募資格）

医療過疎地域の公的病院又は診療所（民間含む）に５年以上勤務する、令和３年４月１日時点で50歳以下（昭和45年４月２日以降生まれ）の地域医療に貢献している医師及び歯科医師

## ■ 募集の状況

期　間：令和３年３月10日～５月28日
応募者：６名（北海道、長野県、滋賀県、兵庫県、岡山県、熊本県）

## ■ 審査会

審 査 日：令和３年６月26日（土）　　審査場所：養父市役所
審 査 員：９名　※詳細は審査員欄を参照ください
受 賞 者：２名を「やぶ医者」に決定

## ■ 過去の受賞者

（敬称略）

| | 氏　名 | 性別 | 所　属 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | 東條環樹（とうじょう たまき） | 男 | 広島県　北広島町雄鹿原診療所 |
| | 前川恭子（まえかわ きょうこ） | 女 | 山口県　萩市国民健康保険むつみ診療所 |
| 第２回 | 白石裕子（しらいし ゆうこ） | 女 | 島根県　西ノ島町国民健康保険浦郷診療所<br>隠岐広域連合立隠岐島前病院<br>知夫村診療所　（※3箇所を兼職） |
| | 十枝めぐみ（とえだ） | 女 | 香川県　綾川町国民健康保険綾上診療所 |
| 第３回 | 花戸貴司（はなと たかし） | 男 | 滋賀県　東近江市永源寺診療所 |
| | 藤原真治（ふじわら しんじ） | 男 | 徳島県　美馬市国民健康保険木屋平診療所 |
| 第４回 | 臼井恒仁（うすい つねひと） | 男 | 滋賀県　米原市　地域包括ケアセンターいぶき |
| | 澤田弘一（さわだ こういち） | 男 | 岡山県　鏡野町国民健康保険上齋原歯科診療所 |
| 第５回 | 市川万邦（いちかわ まほう） | 男 | 山梨県　南部町国民健康保険診療所 |
| | 廣瀬英生（ひろせ ひでお） | 男 | 岐阜県　県北西部地域医療センター国保和良診療所 |
| 第６回 | 片岡恵一郎（かたおか けいいちろう） | 男 | 熊本県　小国町外一ヶ町公立病院組合小国公立病院 |
| | 小泉圭吾（こいずみ けいご） | 男 | 三重県　鳥羽市立神島診療所 |
| 第７回 | 中井和男（なかい かずお） | 男 | 長野県　小谷村国民健康保険小谷村診療所 |
| | 松本毅（まつもと つよし） | 男 | 愛媛県　医療法人松本クリニック |

# 受賞者紹介

松井（まつい）　善典（よしのり）
（41歳）

平成17年３月　滋賀医科大学医学部卒業
平成17年４月　日鋼記念病院　初期臨床研修
平成19年４月　医療法人北海道家庭医療学センター
家庭医療学専門医コース
平成22年４月　更別村国保診療所勤務
平成24年４月　あざいリハビリテーションクリニック勤務
平成26年10月　医療法人若草ファミリークリニック
浅井東診療所勤務
（令和３年４月　医療法人北海道家庭医療学センターに法人継承）

診療所のある長浜市野瀬町は高齢化率が41.75％と高く、浅井東診療所（あざいひがししんりょうしょ）はこの地区唯一の診療所として地域住民の医療福祉の拠点となっています。

診療所では、外来、訪問診療、通所リハの運営と診療を、松井氏を中心に４～７名の複数医師体制・グループ診療で実施されています。

施設看取りにおいては特別養護老人ホームのスタッフとの連携や生涯学習活動などの実績を積み上げて、一つのモデルを構築されています。複数年に渡って滋賀県の施設看取りの講義を担いつつ、厚労省との関わりの中で施設看取りの制度に関わる仕事もされておられます。

また、長浜米原地域医療支援センターの中で、在宅医療を行っている若手医師を中心として在宅医療の診診連携を推進するための委員に就任されたり、長浜市の市民懇話会委員、教育改革プロジェクトの委員も務められたりし、地域医療の立場のみならず市民目線で行政や地域の課題に多職種連携で取り組む活動も実践されるなど、医療・介護・福祉全般において献身的に活動されていることが評価されました。

# 受賞者紹介

**八木田（やぎた）　一雄（かずお）**
（50歳）

| | |
|---|---|
| 平成７年３月 | 自治医科大学卒業 |
| 平成９年 | 田子町国保町立田子病院勤務 |
| 平成11年 | 市浦村国保市浦診療所勤務 |
| 平成14年 | 札幌医科大学地域医療総合医学講座（研究生）勤務 |
| 平成15年 | 田子町国保町立田子病院勤務 |
| 平成18年 | 札幌医科大学地域医療総合医学講座（助教）勤務 |
| 平成20年 | 松前町立松前病院勤務 |

平成20年から松前町立松前病院（まつまえちょうりつまつまえびょういん）に勤務されています。病院のある松前町は高齢化率が50.3％と非常に高く、総合病院のある函館市まで約2時間のへき地にあります。

病院はもともと大学医局から派遣される専門医で構成されていましたが、年々医局からの派遣がなくなり、八木田氏が赴任された2008年には6名体制となっていました。

限られたマンパワーで地域の医療ニーズに応えるため「全科診療医（何でも科）」として、内科、外科、救急、内視鏡、訪問診療、介護施設往診等、日替わりで担当する診療体制として、医師が一人数役の診療にあたる仕組みを取り入れられています。また、へき地医療にも意識が高く、赴任以来月２回、片道30分かけて町で管理している診療所に出向き、約30人の地域住民のために診療を行っておられます。

総合診療医の専門研修施設として積極的に研修医や医学生を受け入れ、研修医・医学生が喜んで研修できる理想とする全科診療医の病院となる礎を築き上げられるなど、医師不足の問題を抱える中、限られた医師数で幅広い疾患に対応する独自の医療提供体制の構築を通じて、地域医療の確保に貢献されたことが評価されました。

# 特別フォーラム　講師・パネリスト紹介

## 講　話

### ～地方が生き残るための医療・介護施策と今後の展望～

**辻（つじ）　哲夫（てつお） 氏**（東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員（元厚生労働事務次官））

1971年厚生省（当時）入省。老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官（医療保険、健康政策担当）、保険局長、厚生労働事務次官などを経て2009年東京大学高齢社会総合研究機構教授に就任。特任教授を経て現在は、同機構客員研究員ほか医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、健康生きがい開発財団理事長など。地域における高齢者の生きがい就労や在宅医療を含む地域包括ケアを柱とする柏プロジェクトなどに従事。専門分野は、社会保障政策/高齢者ケア政策。編著書として「日本の医療制度改革がめざすもの（時事通信社）」「地域包括ケアのすすめ（東大出版会）」「超高齢社会日本のシナリオ（時評社）」「地域包括ケアのまちづくり（東大出版会）」「地域で取組む高齢者のフレイル予防（中央法規）」など。

## ディスカッション

**◆コーディネーター**

**NPO法人但馬を結んで育つ会**

代表理事　**千葉（ちば）　義幸（よしゆき） 氏**（ちば内科・脳神経内科クリニック　院長）

2020年３月、医療と介護の相互連携により、但馬地域の福祉の向上及び医療、介護の地域包括体制構築に寄与することを目的とした「NPO法人 但馬を結んで育つ会」を設立。養父市医療福祉アドバイザー。

**◆パネリスト**

**小谷村国民健康保険小谷村診療所（長野県）**

所　　長　**中井（なかい）　和男（かずお） 氏**

小谷村（おたりむら）でただ一人の医師として、往診等の在宅医療を含めた診療業務の他、村の保健福祉事業や予防疾病対策など多岐に携わる。第７回やぶ医者大賞受賞。

**医療法人松本クリニック（愛媛県）**

理 事 長　**松本（まつもと）　毅（つよし） 氏**

愛南町（あいなんちょう）内で唯一、24時間365日対応の訪問診療を実施。ICTを活用した情報共有の仕組み作りや医療介護関係者の連携を推進。第７回やぶ医者大賞受賞。

**福井診療所（養父市）**

院　　長　**福井（ふくい）　寿徳（ひさのり） 氏**

持続可能な地域医療を確保するために養父市が設置した「地域医療を守り育てる基本方針策定委員会」委員長を務める。

# 審　査　員

※審査委員長以下、五十音順

（審査委員長）

● **枚田　一広**（養父市医師会会長）
兵庫県出身　横浜市立大学医学部卒　脳神経外科枚田クリニック院長
日本脳神経外科学会専門医　医学博士
受賞歴：地域救急医療体制への功労（兵庫県知事表彰）

（審査委員）

● **岡山　雅信**（神戸大学大学院地域医療教育学部門特命教授）
兵庫県出身　自治医科大学卒
受賞歴：Most Successful Fellow of 1998 Cohort, Master of Medical Science
著　書：『家庭でできる応急処置』『薬の処方、徹底トレーニング』

● **小谷裕都子**（公立八鹿病院組合南但訪問看護センター所長）

● **後藤　葉一**（公立八鹿病院院長）
兵庫県出身、京都大学医学部卒
日本臨床運動療法学会理事長、日本心臓リハビリテーション学会前理事長、
日本内科学会総合内科専門医、循環器専門医、日本循環器学会フェロー、
日本心臓病学会功労会員、日本心不全学会特別会員、日本冠疾患学会特別正会員

● **永井　良三**（自治医科大学学長）
東京大学名誉教授　元東京大学医学部付属病院院長
受賞歴：ベルツ賞、持田記念医学薬学新興財団学術賞、日本動脈硬化学会学会賞、紫綬褒章、
日本心血管内分泌代謝学会高峰譲吉賞、European Society of Cardiology Gold Medal

● **中尾　一和**（京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター特任教授）
兵庫県養父市出身　養父市名誉市民　京都大学名誉教授
受賞歴：紫綬褒章、文部科学大臣表彰、日本医師会医学賞、武田医学賞、ベルツ賞、
日本内分泌学会学会賞、日本肥満学会学会賞、日本心血管内分泌代謝学会高峰譲吉賞

● **中野　　穣**（社会福祉法人関寿会はちぶせの里統括管理者）
社会福祉学修士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員
兵庫県介護支援専門員法定研修内容検討委員会副委員長
兵庫県介護支援専門員協会但馬支部副支部長
著　書：『はじめてのケアプラン』『思考プロセスがわかる！　自立支援型ケアプラン事例集』
『施設ケアマネジメント』　他

● **西村　正樹**（滋賀医科大学神経難病研究センター　センター長・教授）
兵庫県養父市出身　京都大学医学部卒
日本認知症学会専門医、指導医、理事、日本神経学会専門医、指導医
受賞歴：University of Toronto Department of Medicine Awards

● **平田　淳一**（兵庫医科大学救急・災害医学講座主任教授）
兵庫医科大学医学部卒　日本救急医学会指導医、JATEC コース終了
CLS インストラクター、ACLS インストラクター、DMAT コース終了、NBC テロ対策講習取得
受賞歴：ACS AHA best award、日本腹部救急医学会会長賞、日本呼吸療法医学会会長賞、
日本集中治療医学会会長賞、日本ショック学会会長賞

# 藪医者の語源は、養父の名医！

江戸時代の俳人で松尾芭蕉の門弟である森川許六という人が編纂した「風俗文選」という俳文集があり、この中に「藪醫者ノ解」と題する一節があります。

俳文集「風俗文選　藪医者ノ解」の一節より

**藪醫者（やぶいしゃ）の解　　汶村（ぶんそん）**

**世に藪醫者と號するは。本名醫の稱にして。今いふ下手の上にはあらず。いづれの御ン時にか。何がしの良醫。但州養父といふ所に隠れて。治療をほどこし。死を起し生に回すものすくなからず。されば其風をしたひ。其業を習ふ輩。津々浦々にはびこり。やぶとだにいへば。病家も信をまし。藥力も飛がごとし。・・・・・**

**※出典：岩波文庫『風俗文選』（伊藤松宇校訂、昭和３年10月15日発行）**
**※この一節で藪医者に言及したのは許六ではなくその門弟で、許六と同じく近江彦根藩士の「汶村」という人物です。**

## この一節を意訳すると次のようになります。

世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を現す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。いつごろの時代であろうか。ある名医が但馬の養父という所にひっそりと隠れるように住んでいて、土地の人に治療を行っていた。死にそうな病人を治すほどの治療を行うことも少なくなかった。その評判は広く各地に伝わり、多くの医者の卵が養父の名医の弟子となった。養父の名医の弟子と言えば、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。

## なぜ名医の代名詞としての「養父医者」は、ヘタを意味する「藪医者」となってしまったのでしょうか。

「養父の名医の弟子と言えば、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。」と「風俗文選」にもあるように、「養父医者」は名医のブランドでした。

しかしこのブランドを悪用する者が現れました。大した腕もないのに、「自分は養父医者の弟子だ」と口先だけの医者が続出し、「養父医者」の名声は地に落ち、いつしか「藪」の字があてられ、ヘタな医者を意味するようになったのではないでしょうか。

「藪医者」の語源については、様々な説がありますが、文献に基づいた「藪医者とは、もともと名医を現す言葉であり、その語源は養父の名医である」という説が本当ではないでしょうか。